

ふたばこども園

園 便 り 2 月 号

平成29年2月1日 発行

文 責 園 長 納 富 博 文

# ふたばっ子



すいせん

## 卒園・進級に向けて

昨年ほどではありませんが強い寒気が押し寄せ、先週はずいぶん冷え込みました。でも、幸いに子どもたちはインフルエンザや嘔吐下痢等に罹患することなく、園庭や園外で元気に走り回っています。「子どもは風の子」の言葉とおりです。

さて、今年度も残すところ2月と3月となりました。2月は「逃げる」、3月は「去る」と言われるように、日々の経過が普段よりも早い気がします。短い期間ですが、年長さんは卒園や小学校入学に向けて、年中さん以下は進級に向けて、学年それぞれに準備を行います。日々の教育・保育活動、音楽会やお別れ遠足等の行事をとおして、進級準備を支援していきたいと思ひます。

## 研究保育の成果に期待

1月24日に0歳児担当の諸岡先生の研究保育があり、全職員で研究会を行いました。今年度予定していた6回の研究保育と研究会を終えることができました。全研究会に、元佐賀女子短大や純真女子短大の教授で、現在は武雄市子育て総合支援センター長の吉牟田先生を講師としてお招きし、これからの指針や指導法等を伝授していただきました。また、ふたばこども園の子どもの成長や安定した園生活にお褒めの言葉をいただきました。

研究会では、子どもが安定して、日々成長するためには環境が重要であること。人的環境や物的環境のあり方や構成について改めて理解を深めました。研究の成果をこれからの日々の教育・保育の実践に活かしていきたいと思ひます。

## これからは非認知能力が重要！

『非認知能力』この言葉を聞かれたことがありますか？最近にわかに、教育保育雑誌やテレビ、NHKの子育て番組等メディアでもよく出てくる言葉です。また、平成30年度から施行される、教育や保育について国の方向性を示す、認定こども園教育・保育要領（幼稚園教育要領・保育指針等）や小・中学校学習指導要領の中にも登場してくる言葉です。

本園でも、10月11日に開催されたふたばの会の「子育て座談会」で、参加された保護者の皆様には『非認知能力』とその伸ばし方についてのお話しをしました。

『非認知能力』とは、IQ（知能）や知識・理解力に関係なく、「意欲」「協調性」「粘り強さ」「忍耐力」「計画性」などの個人の特性のことです。

ジェームズ・ヘックマンの著書など最近の教育論を読むと、IQよりもむしろ、この『非認知能力』が社会的成功に結びつきやすいと言っています。また、2020年からの大学入試でも、この『非認知能力』を評価の対象とすることが決まっています。

では、この『非認知能力』はどうしたら伸ばせるのでしょうか？あるお母さんの実践例を紹介しします。

習い事がある日でも雨が降りそうな日でも、直前まで遊ばせました。遊具がなくても頭を使って遊べるように、あえて遊具の少ない場所に連れて行ったりもしました。また、異年齢の子とも遊ぶよう機会を設けました。そうすることで、協調性、創意工夫、忍耐力や交渉力、リーダーシップや人の間に入っての調整力（まとめる力）、感情コントロール力などが鍛えられました。自然に触れながら遊ぶことを私はとても大切に考えていて、習い事より優先したこともあるほどでした。自由遊びは非認知能力を伸ばすのにあらゆる面で有効です。

幼児期、特に就学前までに、黙々と遊び込ませること、いろいろな遊びの体験をいっぱいさせることが非認知能力を伸ばすことにつながるようです。ふたばこども園は「遊びは学び」の教育をこれからも大切にしていきたいと思ひます。